

<セミナー報告> ICA（国際協同組合同盟）連携セミナー

ブループリント第2フェイズを迎えた世界の協同組合の課題

主催：日本協同組合連絡協議会（JJC） 共催：日本協同組合学会

日本協同組合連絡協議会（JJC）主催のICA連携セミナーが、2016年5月15日J Aビル会議室において開催されました。

主催者を代表してJJC幹事長 比嘉政浩氏（全国農業協同組合中央会専務理事）と日本協同組合学会会長 石田正昭氏（龍谷大学教授）があいさつをした後、国際協同組合同盟（ICA）の会長モニク・F・ルルー氏が講演し、ICAアジア太平洋地域事務局長バル・アイヤー氏がコメントを行いました。

本誌では、ICAの今後の活動に向けたモニク・F・ルルー会長の講演の概要をご紹介します。

が重要と考えています。

昨年秋にはトルコで開催されたG20ビジネスサミット（B20：G20と同時開催され、世界のビジネス界の代表が集う）に出席しました。



今年のG20ビジネスサミットは9月に中国で開催予定です。持続的成長、食糧安全保障、若年層の失業問題、マイクロファイナンス等の貧困層向け金融など、私たち協同組合にも大いに関係していることが議論されますので、G7メンバーでもある日本のような国からは、なるべく代表団を送っていただきたいと考えています。

【ICAモニク・ルルー会長の講演概要】

日頃から協同組合運動のためにご尽力されている皆さんにICAを代表して感謝を申し上げます。

昨年11月のICA総会で会長に選任されて以来、世界の協同組合運動にとって重要な存在である日本の皆さんにご挨拶をしたいと思います。

◆ICAは世界の協同組合の声を代表

ICAは世界100以上の国々で活動する協同組合を代表する組織で、加盟する協同組合の組合員は10億人、事業高は3兆ドルを超える規模となっています。

私は、各国政府や国連機関等の人たちに、協同組合の存在意義についての理解を深めてもらうために、このような世界の協同組合の組織や事業規模について、様々な場でアピールしていくこと

◆協同組合の10年に向けたブループリント

さて、「協同組合の10年に向けたブループリント」第2フェイズに移行するにあたり、「参加」「持続可能性」「アイデンティティ」「法的枠組み」「資本」の5つのテーマについて、振り返っておきたいと思います。

「参加」はICA原則に基づいており、説明するまでもないでしょう。

「持続可能性」においては、協同組合陣営は既に優れた取り組みをしています。例えば保険・金融セクターによるサステナビリティ投資の取り組みです。

「アイデンティティ」については、世界中で様々なキャンペーンを展開しています。

「法的枠組み」については、先進国は概ね協同組合に関する法体系が整備されていますが、発展途上国において未だ法的枠組みが整備され

ていない国があります。これからもグローバルな観点から情報交換を行っていくことが重要です。

「資本」に関しては、各国において外国資本による国内中小企業の買収という問題がでてきていますが、協同組合は組織の所有者が利用者・組合員・メンバーであり、そのような組織形態こそ、私たちの社会経済の将来にとって相応しい姿ではないでしょうか。

◆協同組合間の情報共有と事業連携を促進

次にICA理事会で議論している優先課題についてお話しします。

第一は「加盟団体・組合員とともに」ということです。協同組合としては、組合員に寄り添うこと、組合員の近くにいること、つながっていることが重要です。それが実践できていれば、成長できます。ICAの基盤は加盟する各協同組合にあり、各協同組合の基盤は組合員にあります。

ICAにとっての第二の優先課題は「持続的な開発・教育」です。持続的な開発という面では、協同組合の発展途上国における活動と意義が評価されて、EUから800万ユーロ（＝約10億円）の助成金を得ることができました。これは協同組合の役割が各国政府や国連等の外部機関からも重視されるようになってきたことの証左といえます。

教育面では、各地の協同組合において、若年層のリーダーを育成していくことが必要です。これは協同組合運動の未来を背負っていってくれる人材を育成するという意味で大切なことです。

第三の優先課題は「成長・協同組合間の事業連携・革新」です。協同組合は運動面、事業面の両方で成長していくことが重要で、そのために



ブランドイメージを確立することが必要でしょう。

私はICAに加盟する協同組合間の情報交換やコミュニケーションをさらに活発にしていけることが重要と考えています。ICA加盟の協同組合間に、業種や組織規模、国や地域を超えたコミュニティを作り、各協同組合の成功事例の共有、インターネットなどの先進的なIT利用手法の情報交換、次世代リーダーの教育訓練の共同化などの様々な情報共有と事業協力・事業連携ができるようにしたいと考えます。

このようなコミュニティは、世界の協同組合運動の成長・発展に大きく寄与することでしょう。ICAはそのためのカタリスト（＝促進する働きをするもの）としての役割を果たしていきたいと考えています。

さらには革新やイノベーションを起こしていくことも必要です。私の出身母体では、昨年「デジャルダン・ラボ（＝実験室）」という業種や業界を越えた様々な職種や地位の人たちがオープンに交流できる場を作る取り組みを始めました。このようなオープンかつ自由な取り組みの中から、新しいアイデアやイノベーションも生まれてくるのではないのでしょうか。

世界中にあるICAに加盟する協同組合によってこのようなコミュニティを形成することは、一朝一夕にできることではないことは分かっています。しかし、今このような取り組みを始めることによって、2～3年後には世界の協同組合運動にとって大きな力をもたらしてくれるのではないかと期待しています。

このような優先課題を実践していくことによって、ICAに加盟する協同組合が、それぞれの活動地域で成長・発展し、各国政府に対する発言力を増すとともに、競合するグローバル企業に対抗する力を強めていくことと私は信じています。

協同組合人として、組合員と地域に貢献することにより、変化し続ける世界におけるリーダーとなっていこうではありませんか。

（文責・編集部）